

## ●掲載データ一覧

環境関連データ	図表1	国内企業活動におけるエネルギー使用量および売上高原単位の推移
	図表2	国内企業活動におけるCO <sub>2</sub> 排出量の推移
	図表3	2022年度「環境取り組みの数値目標」と活動実績、および2023年度「環境取り組みの数値目標」
	図表4	日本国内全体の環境負荷(2022年度)
	図表5	日本国内の環境負荷 事業工程別(2022年度)
	図表6	海外製造子会社の環境負荷(2022年度)
	図表7	海外販売子会社の環境負荷(2022年度)
	図表8	使用済み製品と消耗品の回収量
	図表9	使用済み製品の再資源化率
	図表10	産業廃棄物および一般廃棄物の特殊最終処分率の推移
	図表11	水の使用量の推移
	図表12	PRTR指定化学物質の排出量および移動量の内訳
	図表13	PRTR指定化学物質総使用量と排出量および移動量の合計の推移
	図表14	PRTR指定化学物質排出量および移動量
	図表15	国内全体の委託貨物輸送量内訳とモーダルシフト率の推移
	図表16	委託貨物輸送によるCO <sub>2</sub> 排出量の内訳
	図表17	リターナブルラック使用率と使い捨て梱包材削減量の推移
	図表18	環境教育実施内容と参加人数(2022年度)
環境会計	図表19	2022年度の集計結果
	図表20	コスト(投資額+費用額)の推移
	図表21	経済効果(収益+費用節減)の推移
	図表22	環境会計の推移(製品の環境配慮設計などの開発費用を除いた比較)
主要事業所の環境データ (サイトデータ)	図表23	サイトデータ(筑波事業所)
	図表24	サイトデータ(霞ヶ浦事業所)
	図表25	サイトデータ(宇部事業所)
	図表26	サイトデータ(理想開発センター)
社会関連データ	図表27	採用実績(国内)(新卒/中途)
	図表28	採用実績(国内)(男性/女性)
	図表29	労働災害発生件数および度数率・強度率
	図表30	延実労働時間と労働損失日数

### 凡例について:

注…個別箇所の増減を説明

※…図表全体に関わる注記

\*…言葉の定義

## 環境関連データ

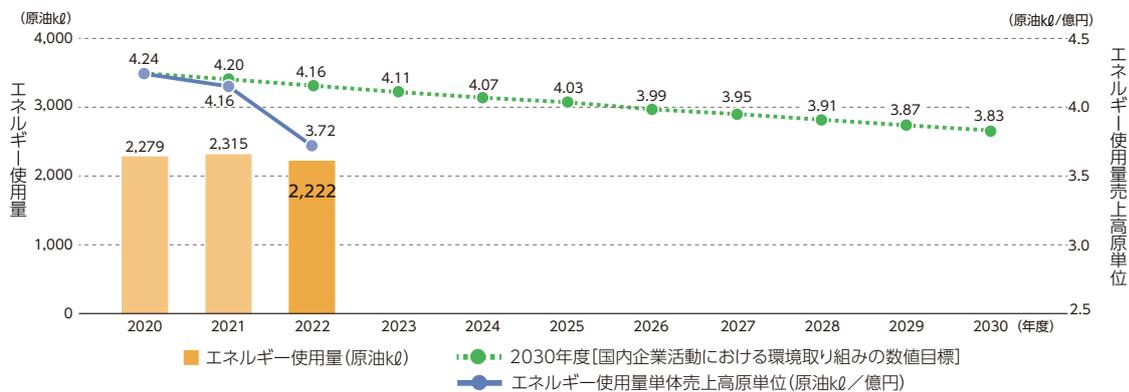
### 2030 年度 環境取り組みの数値目標の進捗

企業の成長と温暖化対策の両立をめざす産業界を挙げての取り組みである「電機・電子業界 カーボンニュートラル行動計画」を踏まえ、2030 年度「環境取り組みの数値目標」の達成に向けて単年度ごとに数値目標を設定し、環境負荷低減活動の進捗を管理しています。

#### 国内企業活動における「省エネ推進」

- 国内全体で 2020 年度を基準として、2030 年度に 9.56%改善する。  
(2030 年度においてエネルギー使用量単体売上高原単位を 3.83 原油kℓ/億円以下にする)
- エネルギー原単位改善率を年平均 1%改善する。

図表 1 国内企業活動におけるエネルギー使用量および売上高原単位の推移

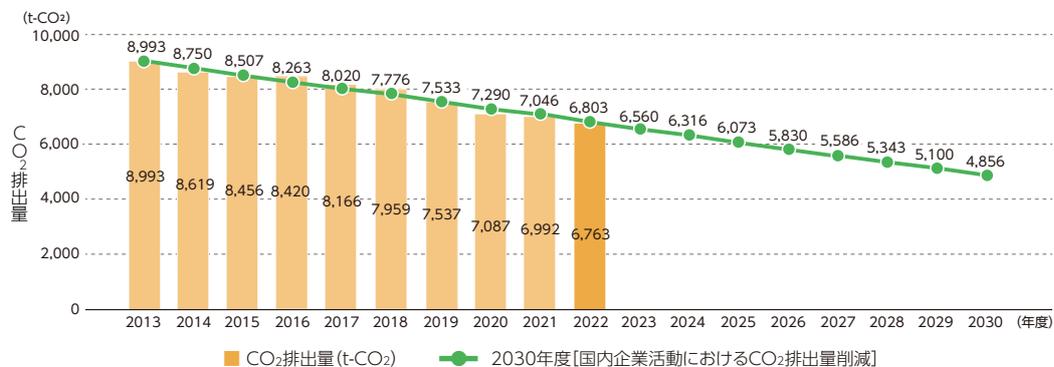


集計範囲:理想科学単体国内事業所のエネルギー使用量(委託物流量、社有車燃料使用量は除く)。売上高は単体売上高。  
2030年度環境取り組みの数値目標の設定に際し、集計範囲の見直しを実施しました。

#### 国内企業活動における「CO<sub>2</sub> 排出量削減への挑戦」(チャレンジ目標)

- 国内全体で 1) 国内事業所のエネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出量の削減
- 2) 2013 年度基準で、46% 程度の削減に挑戦する

図表 2 国内企業活動における CO<sub>2</sub> 排出量の推移



集計範囲:国内全事業所のエネルギー使用量、社有車の燃料使用量、物流部所管の製品・サービスの物流委託量とそれに伴うCO<sub>2</sub>排出量。売上高は単体売上高。  
2030年度環境取り組みの数値目標の設定に際し、集計範囲の見直しを実施しました。

## 環境関連データ

図表3 2022年度「環境取り組みの数値目標」と活動実績、および2023年度「環境取り組みの数値目標」

カテゴリー 適用範囲	CO <sub>2</sub> 排出量の削減		
	国内全体と海外製造子会社	国内全体	国内生産事業所合計
2022年度 「環境取り組みの数値目標」	7,995t-CO <sub>2</sub> 以下にする。	7,027t-CO <sub>2</sub> 以下にする。	2,593t-CO <sub>2</sub> 以下にする。
2022年度 活動実績	7,704t-CO <sub>2</sub>	6,763t-CO <sub>2</sub> <small>注1</small>	2,594t-CO <sub>2</sub>
評価	○	○	△
2023年度 「環境取り組みの数値目標」	7,558t-CO <sub>2</sub> 以下にする。	6,632t-CO <sub>2</sub> 以下にする。	2,551t-CO <sub>2</sub> 以下にする。

評価の凡例:○ 達成 △未達成だが前年より改善 ×未達成

注1 図表4の2022年度CO<sub>2</sub>排出量(7,219t-CO<sub>2</sub>/年)と差異があるのは、図表4の委託貨物輸送の集計範囲には、物流部所管以外の委託貨物輸送が含まれているからです。

### POINT

2022年度も継続して省エネ効果の高い照明や空調への入れ替えなどを行いました。CO<sub>2</sub>排出量削減に大きく寄与する設備投資はありませんでした。2021年度と比較してCO<sub>2</sub>排出量の増加は、ありませんでした。再生可能エネルギーの導入等、従来手法とは異なるCO<sub>2</sub>排出量削減を検討しています。

図表4 日本国内全体の環境負荷(2022年度)

INPUT					OUTPUT						
		2021年度	2022年度	前年度比		2021年度	2022年度	前年度比			
日本国内の事業活動全体におけるエネルギー使用量およびCO <sub>2</sub> 排出量、資源投入量、廃棄物排出量などを表します。											
エネルギーの使用量	GJ/年	125,129	121,038	97	CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub> /年	7,453	7,219	97		
	電力	MWh	8,266	7,853	95		電力	t-CO <sub>2</sub> /年	4,588	4,359	95
	A重油	kℓ	36	34	95		A重油	t-CO <sub>2</sub> /年	97	92	95
	LPG	t	91	104	114		LPG	t-CO <sub>2</sub> /年	274	313	114
	灯油	kℓ	0	0	—		灯油	t-CO <sub>2</sub> /年	0	0	—
	都市ガス	千m <sup>3</sup>	53	50	94		都市ガス	t-CO <sub>2</sub> /年	115	111	97
	ガソリン	kℓ	415	398	96		ガソリン	t-CO <sub>2</sub> /年	982	940	96
	軽油	kℓ	1	1	119		軽油	t-CO <sub>2</sub> /年	1	2	119
	委託貨物輸送量*6	万t・km	733	750	102		委託貨物輸送量*6	t-CO <sub>2</sub> /年	1,396	1,402	100
水の使用量	m <sup>3</sup>	22,507	24,046	107	排水量	m <sup>3</sup>	20,188	21,901	108		
		<small>注1</small>			蒸気放散・散水その他	m <sup>3</sup>	0	0	—		
製品の部品・材料	t	5,079	4,895	96	製品*5	t	7,489	7,140	95		
使用済み製品回収量	t	2,286	2,051	90	使用済み製品・廃棄物処理量*1	t	3,071	2,842	93		
					再生投入量*7	t	191	239	125		
					再資源化量*2	t	2,856	2,578	90		
					その他*3	t	1	4	522		
					埋立最終処分量*4	t	24	21	88		

集計範囲：P.4 図表5「日本国内の環境負荷 事業工程別(2022年度)」のINPUT/OUTPUTを集計しています。

集計対象：日本国内 本社・営業、開発・設計、生産でのエネルギー使用量とそれに伴うCO<sub>2</sub>排出量、水使用量と排水量、廃棄物排出量、生産での物質投入量、日本国内の物流・輸送、社有車の運行による燃料使用量、委託貨物輸送量(物流部所管以外の委託貨物輸送量も含む)とそれに伴うCO<sub>2</sub>排出量。回収・リユース・リサイクルでの使用済み製品回収量と廃棄物排出量。

注1 2021年度の数値に誤りがあったため、訂正しました。

- \*1 廃棄物排出量…当社では、有価物や再資源化されるもの、リユースされるものを含めて工程から不要物として排出されるもの全てを廃棄物としています。
- \*2 再資源化量…再資源化された量および熱を得る利用(サーマルリサイクル)量で有価物を含めた合計量。工程に再投入される量は除く。
- \*3 廃棄物排出量内訳のその他…再資源化処理や焼却処分でのガスとしての放出量など。
- \*4 埋立最終処分量…埋立処分される量。再資源化処理などの中間処理で発生する残渣、焼却灰で埋立処理される量を含む。
- \*5 製品…高速カラープリンター「オルフィス」、デジタル印刷機「リソグラフ」およびそれらのインク、マスターのサプライ品。
- \*6 委託貨物輸送量…輸送業者に委託する製成品、部品・パーツの配送・調達、使用済み製品の回収、廃棄物の搬送などの輸送量。
- \*7 再生投入量…再資源化処理されたもののうち原材料として工程に再投入される量。

### ●CO<sub>2</sub>排出量の算定について

電力：日本国内については通年にわたって0.555kg-CO<sub>2</sub>/kWh、海外については国ごとにIEAの統計データの換算値を適用。  
A重油：2.71kg-CO<sub>2</sub>/ℓ、LPG：3.00kg-CO<sub>2</sub>/kg、ガソリン：2.32kg-CO<sub>2</sub>/ℓ 委託貨物輸送量：省エネ法の算定基準による。

環境関連データ

図表5 日本国内の環境負荷 事業工程別(2022年度)

事業工程	INPUT				OUTPUT					
		2021年度	2022年度	前年度比		2021年度	2022年度	前年度比		
<b>本社・営業</b> 【集計範囲】 理想科学工業(株)および 理想沖繩(株)の本社、国内 営業拠点(廃棄物は本社 のみ)	本社・営業部門の事業所活動におけるエネルギー使用量およびCO <sub>2</sub> 排出量などを表します。									
	エネルギーの使用量	GJ/年	20,594	18,231	89	CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub> /年	1,134	1,003	88
	昼間電力	MWh	1,843	1,615	88	昼間電力	t-CO <sub>2</sub> /年	1,023	896	88
	LPG	t	3	3	104	LPG	t-CO <sub>2</sub> /年	9	9	104
	灯油	kℓ	0	0	—	灯油	t-CO <sub>2</sub> /年	0	0	—
	都市ガス	千m <sup>3</sup>	48	44	92	都市ガス	t-CO <sub>2</sub> /年	103	98	95
	水の使用量	m <sup>3</sup>	2,966	3,260	110	排水量	m <sup>3</sup>	2,966	3,260	110
						廃棄物排出量*1	t	10	9	89
						再資源化量*2	t	10	9	88
						その他*3	t	0	0	0
					埋立最終処分量*4	t	0	0	151	
<b>開発・設計</b> 【集計範囲】 理想開発センター 理想開発センターII	製品開発におけるエネルギー使用量およびCO <sub>2</sub> 排出量などを表します。									
	エネルギーの使用量	GJ/年	23,382	22,674	97	CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub> /年	1,326	1,285	97
	昼間電力	MWh	1,698	1,665	98	昼間電力	t-CO <sub>2</sub> /年	942	924	98
	夜間電力	MWh	669	625	93	夜間電力	t-CO <sub>2</sub> /年	372	347	93
	LPG	t	0	0	—	LPG	t-CO <sub>2</sub> /年	0	0	—
	都市ガス	千m <sup>3</sup>	5	6	111	都市ガス	t-CO <sub>2</sub> /年	12	13	111
	水の使用量	m <sup>3</sup>	6,438	6,640	103	排水量	m <sup>3</sup>	6,438	6,640	103
						廃棄物排出量*1	t	120	103	86
						再資源化量*2	t	118	98	83
						その他*3	t	0	3	—
					埋立最終処分量*4	t	0.8	0.9	117	
<b>生産</b> 【集計範囲】 筑波事業所 宇部事業所 霞ヶ浦事業所	生産した主要製品*5への材料投入量とエネルギー使用量およびCO <sub>2</sub> 排出量、廃棄物排出量などを表します。									
	エネルギーの使用量	GJ/年	46,061	45,581	99	CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub> /年	2,613	2,587	99
	昼間電力	MWh	3,674	3,583	98	昼間電力	t-CO <sub>2</sub> /年	2,039	1,989	98
	夜間電力	MWh	381	365	96	夜間電力	t-CO <sub>2</sub> /年	212	202	96
	A重油	kℓ	36	34	95	A重油	t-CO <sub>2</sub> /年	97	92	95
	LPG	t	88	101	115	LPG	t-CO <sub>2</sub> /年	265	304	115
	灯油	kℓ	0	0	—	灯油	t-CO <sub>2</sub> /年	0	0	—
	水の使用量	m <sup>3</sup>	13,102	14,146	108	排水量	m <sup>3</sup>	10,784	12,001	111
	製品の部品・材料	t	5,079	4,895	96	蒸気放散・散水その他	m <sup>3</sup>	0	0	—
	金属	t	728	790	109	製品*5	t	7,489	7,140	95
	プラスチック	t	893	849	95					
	ガラス	t	0	0	110					
	紙	t	1,518	1,440	95					
	その他	t	1,940	1,815	94					
	PRTR物質取引量	t	2.2	1.9	86	PRTR物質の排出量・移動量合計	kg	93.3	56.2	60
					大気への排出量	kg	0	0	—	
					水域への排出量	kg	0	0	—	
					土壌への排出量	kg	0	0	—	
					廃棄物への移動量	kg	93.3	56.2	60	
					廃棄物排出量*1	t	656	668	102	
					再資源化量*2	t	653	666	102	
					その他*3	t	1	1	100	
					埋立最終処分量*4	t	2	2	88	
<b>販売・物流・輸送</b> 【集計範囲】 日本国内の物流・輸送、 社有車の運行	お客様への販売活動や保守サービス活動など社有車の燃料使用量とCO <sub>2</sub> 排出量、製品の配送、使用済み製品の回収運搬など委託貨物輸送に関わるエネルギー使用量とCO <sub>2</sub> 排出量を算出しています。									
	エネルギーの使用量	GJ/年	35,091	34,552	98	CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub> /年	2,380	2,344	99
	ガソリン	kℓ	415	398	96	ガソリン	t-CO <sub>2</sub> /年	982	940	96
	軽油	kℓ	1	1	119	軽油	t-CO <sub>2</sub> /年	1	2	119
	委託貨物輸送量*6	万t・km	733	750	102	委託貨物輸送量*6	t-CO <sub>2</sub> /年	1,396	1,402	100
<b>回収・リユース・リサイクル</b> 【集計範囲】 日本国内の使用済み製品	使用済みとなった製品の回収量およびリユース、リサイクル量を表します。回収した製品の有効利用を進めています。再資源化できない部品などの一部埋立処分も行っています。									
	使用済み製品回収量	t	2,286	2,051	90	使用済み製品処理量	t	2,286	2,062	90
	デジタル印刷機	t	2,029	1,816	90	再生投入量*7	t	191	239	125
	インクボトル	t	231	208	90	再資源化量*2	t	2,074	1,805	87
	インクカートリッジ	t	26	27	104	その他*3	t	0	0	—
					埋立最終処分量*4	t	21	18	87	

\*1 廃棄物排出量…当社では、有価物や再資源化されるもの、リユースされるものを含めて工程から不要物として排出されるものを全てを廃棄物としています。  
 \*2 再資源化量…再資源化された量および熱を得る利用(サーマルリサイクル)量で有価物を含めた合計量。工程に再投入される量は除く。  
 \*3 廃棄物排出量内訳のその他…再資源化処理や焼却処分でのガスとしての放出量など。  
 \*4 埋立最終処分量…埋立処分される量。再資源化処理などの中間処理で発生する残渣、焼却灰で埋立処理される量を含む。  
 \*5 製品…高速カラープリンター「オルフィス」、デジタル印刷機「リソグラフ」およびこれらのインク、マスターのサプライ品。  
 \*6 委託貨物輸送量…輸送業者に委託する製商品、部品・パーツの配送・調達、使用済み製品の回収、廃棄物の搬送などの輸送量。  
 \*7 再生投入量…再資源化処理されたもののうち原材料として工程に再投入される量。

注1 2021年度の数値に誤りがあったため、訂正しました。

環境関連データ

図表6 海外製造子会社の環境負荷(2022年度)

対象	INPUT				OUTPUT					
		2021年度	2022年度	前年度比		2021年度	2022年度	前年度比		
<b>海外製造子会社</b> 【集計範囲】 理想科学グループの海外全生産拠点:理想(中国)科学工業有限公司珠海工場、理想工業(香港)有限公司、理想工業(深セン)有限公司、理想(上海)印刷機材有限公司、RISO INDUSTRY (THAILAND) CO.,LTD.	海外製造子会社での材料投入量とエネルギー使用量およびCO <sub>2</sub> 排出量、廃棄物排出量などを表します。									
	エネルギーの使用量	GJ/年	14,202	13,334	94	CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub> /年	981	940	96
	電力	MWh	1,331	1,248	94	電力	t-CO <sub>2</sub> /年	919	881	96
	LPG 注1	t	3	3	102	LPG 注1	t-CO <sub>2</sub> /年	9	9	102
	ガソリン	kℓ	19	16	84	ガソリン	t-CO <sub>2</sub> /年	44	38	85
	軽油	kℓ	3	5	140	軽油	t-CO <sub>2</sub> /年	9	13	140
	水の使用量	m <sup>3</sup>	15,340	13,265	86	排水量	m <sup>3</sup>	11,732	9,968	85
	製品の部品・材料	t	3,530 注2	3,430	97	蒸気放散・散水その他	m <sup>3</sup>	2,954	2,690	91
	金属	t	1,878 注2	1,849	98	製品*5	t	4,185 注2	4,038	96
	プラスチック	t	513 注2	503	98	廃棄物排出量*1	t	201	192	95
	ガラス	t	0	0	100					
	紙	t	468 注2	442	95					
	その他	t	672 注2	637	95					
						再生投入量*7	t	0	0	—
						再資源化量*2	t	168	163	97
					その他*3	t	11.3	11.5	102	
					埋立最終処分量*4	t	21.6	17.5	81	

図表7 海外販売子会社の環境負荷(2022年度)

対象	INPUT				OUTPUT					
		2021年度	2022年度	前年度比		2021年度	2022年度	前年度比		
<b>海外販売子会社全体</b> 【集計範囲】 海外17子会社*および営業拠点*8	海外販売子会社の本社・営業拠点におけるエネルギー使用量およびCO <sub>2</sub> 排出量などを表します。									
	エネルギーの使用量原単位	GJ/人*9	55.6 注2	56.7	102	CO <sub>2</sub> 排出量原単位	t-CO <sub>2</sub> /人*9	3.61 注2	3.68	102
	エネルギーの使用量	GJ/年	38,624 注2	38,641	100	CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub> /年	2,505 注2	2,513	100
	電力	MWh	1,167 注2	1,206	103	電力	t-CO <sub>2</sub> /年	696 注2	728	105
	天然ガス	m <sup>3</sup>	10,323	8,733	85	天然ガス	t-CO <sub>2</sub> /年	21	18	86
	ガソリン	kℓ	591	600	102	ガソリン	t-CO <sub>2</sub> /年	1,371	1,392	102
	軽油	kℓ	162	145	90	軽油	t-CO <sub>2</sub> /年	417	375	90
	水の使用量	m <sup>3</sup>	592	513	87	排水量	m <sup>3</sup>	592	513	87

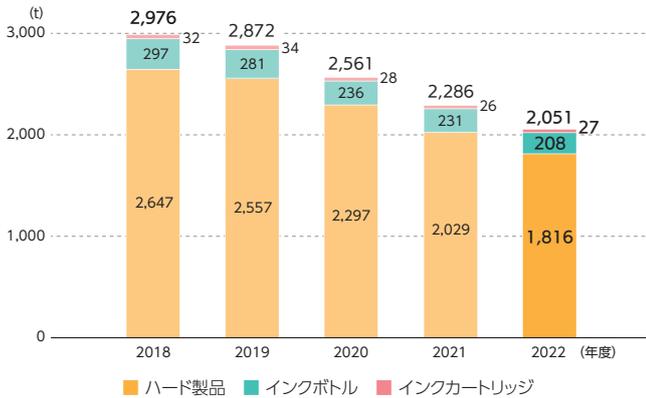
\*RISO, INC. RISO FRANCE S.A. RISO (Deutschland) GmbH RISO (U.K.) LTD. RISO IBERICA, S.A. RISOGRAFIA ITALIA S.R.L. RISO AFRICA (PTY) LTD. RISO KOREA LTD. RISO HONG KONG LTD. RISO (Thailand) CO., LTD. RISO INDIA PRIVATE LTD. 理想(中国)科学工業有限公司, RISO LATIN AMERICA, INC. RISO EURASIA LLC, RISO TURKEY BASKI COZUMLERI A.S. RISO (SG) PTE. LTD. RISO EURASIA KAZAKHSTAN LLC.

- \*1 廃棄物排出量…当社では、有価物や再資源化されるもの、リユースされるものを含めて工程から不要物として排出されるもの全てを廃棄物としています。
- \*2 再資源化量…再資源化された量および熟を得る利用(サーマルリサイクル)量で有価物を含めた合計量。工程に再投入される量は除く。
- \*3 廃棄物排出量内訳のその他…再資源化処理や焼却処分でのガスとしての放出量など。
- \*4 埋立最終処分量…埋立処分される量。再資源化処理などの中間処理で発生する残渣、焼却灰で埋立処理される量を含む。
- \*5 製品…高速カラープリンター「オルフィス」、デジタル印刷機「リソグラフ」およびそれらのインク、マスターのサプライ品。
- \*6 委託貨物輸送量…輸送業者に委託する製商品、部品・パーツの配送・調達、使用済み製品の回収、廃棄物の搬送などの輸送量。
- \*7 再生投入量…再資源化処理されたものうち原材料として工程に再投入される量です。
- \*8 海外販売子会社の環境負荷の把握は当社が主で支店等の営業拠点のデータ収集はまだ一部です。2022年度事業所・拠点在籍人員比からのデータ補足率は56.7%。
- \*9 海外販売子会社については、事業所の移動、人員の増減、調査の可否など変動が大きいため、調査を実施した事業所に所属する従業員の総数を分母として原単位を求め、効率の推移を表しました。

注1 「A重油」を「LPG」に変更しました。  
 注2 2021年度の数値に誤りがあったため、訂正しました。

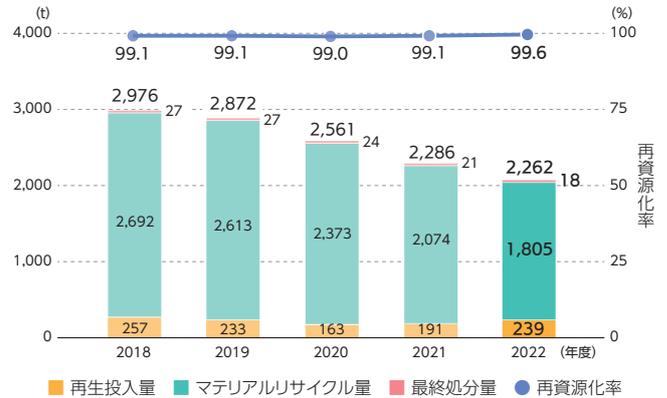
## 環境関連データ

図表8 使用済み製品と消耗品の回収量



集計範囲:日本国内の使用済み製品を対象に集計しています。ただし、デジタル印刷機のリユースとしてのレンタル機の返却・回収を除いています。

図表9 使用済み製品の再資源化率



集計範囲:日本国内の使用済み製品を対象に集計しています。ただし、デジタル印刷機のリユースとしてのレンタル機の返却・回収を除いています。

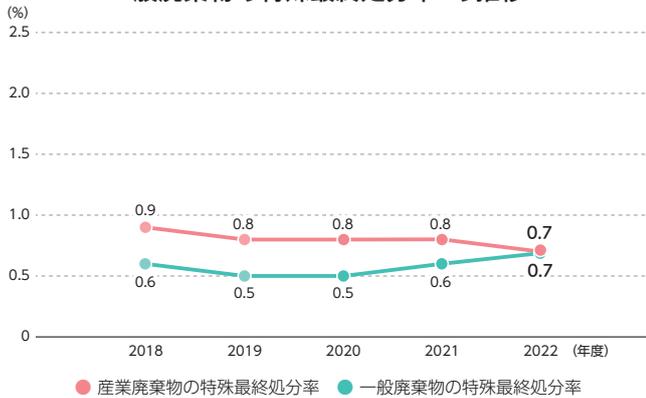
### POINT

当社は「使用済み製品は廃棄物ではなく、貴重な資源である」という考えのもと、使用済みハード製品・消耗品の回収・リサイクルを積極的に進めています。海外でも、現地の法律や社会的要請を踏まえ、使用済み製品の回収・再資源化を進めています。

### POINT

使用済み製品をリサイクル製品として再生投入するとともに、リユースできない部品・パーツの再資源化を継続維持しています。

図表10 産業廃棄物および一般廃棄物の特殊最終処分率\*の推移



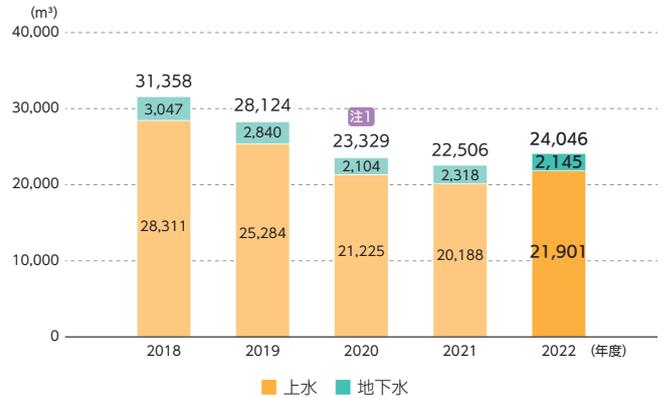
集計範囲:筑波、宇部、霞ヶ浦、開発本部の各事業所から排出される産業廃棄物量、一般廃棄物量(有価物、再資源化物としての排出量を含む)。国内全ての使用済み製品の回収量と再資源化量、ほかの処理内訳量(ただし、レンタル機の戻り・返品、手を加えないレンタル機の別の貸出先での再使用は除く)

\*特殊最終処分率…当社では、単純焼却量+再資源化処理で埋立処分される量(残渣・焼却灰)+直接埋立処分量を特殊最終処分量と定義し、特殊最終処分量の廃棄物排出量(有価物、再資源化物を含む)に占める割合(%)を特殊最終処分率としています。単純焼却については資源を有効に活用していないものと考え、投入量全てを埋立処分量とみなしています。

### POINT

産業廃棄物および一般廃棄物の最終処分率が現在の水準を超えないように維持管理しています。

図表11 水の使用量の推移



集計範囲:日本国内の水の使用量を対象に集計しています。

注1 集計範囲を変更しました。

### POINT

生産事業所で使用する水は、その約1割が原材料およびボイラー蒸気の原水で、残りの約9割が主にトイレや食堂などで使用する生活用水です。これらは、公共水域または下水へ排出しています。2022年度の使用量は前年度より約1,540m³(約7%)増加しました。

## 環境関連データ

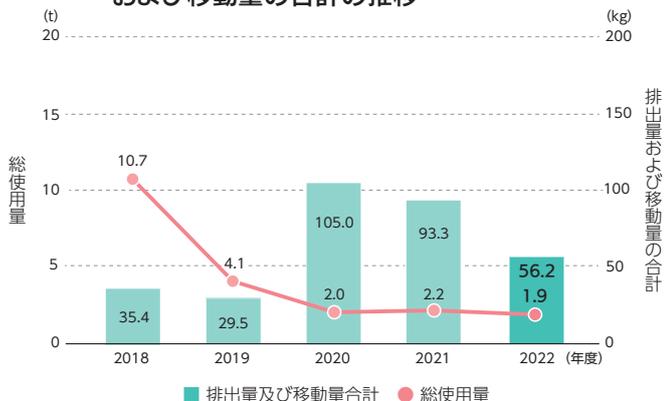
図表12 PRTR指定化学物質の排出量および移動量の内訳

(単位:kg)

	総使用量		排出・移動量小計		大気排出量		水域排出量		土壌排出量		廃棄物移動量	
	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度
ポリオキシエチレンアルキルエーテル	124.3	114.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BHT	160.0	10.0	16.0	7.0	-	-	-	-	-	-	16.0	7.0
モリブデン及びその化合物	115.2	107.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
メタクリル酸2,3-エポキシプロピル	1,724.5	1,610.9	36.0	19.6	-	-	-	-	-	-	36.0	19.6
2-エチルヘキサン酸	20.4	3.0	17.0	0.2	-	-	-	-	-	-	17.0	0.2
コバルト及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0
メタクリル酸	1.5	4.4	1.5	4.4	-	-	-	-	-	-	1.5	4.4
アセトニトリル	17.3	0.0	17.3	-	-	-	-	-	-	-	17.3	0.0
メタクリル酸メチル	1.5	9.9	1.5	9.9	-	-	-	-	-	-	1.5	9.9
キシレン	1.5	0.0	1.5	0.0	-	-	-	-	-	-	1.5	0.0
エチルベンゼン	1.5	0.0	1.5	0.0	-	-	-	-	-	-	1.5	0.0
二アクリル酸ヘキサメチレン	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0
有機スズ化合物	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	1.0
ノルマル-ヘキサン	-	12.1	-	12.1	-	-	-	-	-	-	-	12.1
アクリル酸2-ヒドロキシエチル	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	1.0
計	2,168.8	1,875.9	93.3	56.2	-	-	-	-	-	-	93.3	56.2

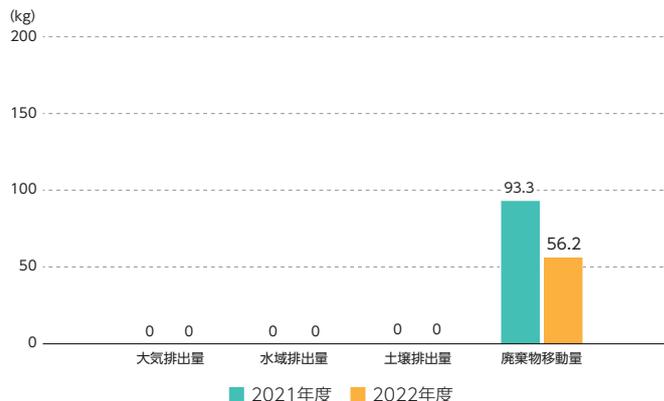
集計範囲:筑波事業所、宇部事業所、霞ヶ浦事業所、理想開発センター  
 ※環境側面調査の結果から年間取扱量が1kg以上の物質について排出量・移動量を集計しています。

図表13 PRTR指定化学物質総使用量と排出量および移動量の合計の推移



集計範囲:筑波事業所、宇部事業所、霞ヶ浦事業所、理想開発センター  
 ※環境側面調査の結果から年間取扱量が1kg以上の物質について排出量・移動量を集計しています。

図表14 PRTR指定化学物質排出量および移動量



集計範囲:筑波事業所、宇部事業所、霞ヶ浦事業所、理想開発センター  
 ※環境側面調査の結果から年間取扱量が1kg以上の物質について排出量・移動量を集計しています。

### POINT

当社は、PRTR\*指定化学物質の排出量・移動量を調査しています。調査結果をもとに、代替物質への転換や排出抑制策を検討し、生産過程における指定化学物質の排出量および移動量低減に結びつけています。

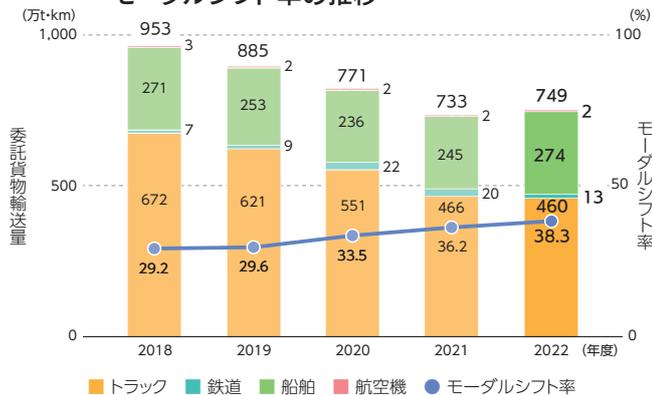
2022年度のPRTR指定化学物質の総使用量は1.9tと前年度より0.3t減少しました。排出量・移動量の合計については0.04t減少しました。

今後も代替物質への切り替えなど検討し、使用量の削減を図っていきます。

\*PRTR(Pollutant Release and Transfer Register: 環境汚染物質排出・移動登録) … 環境汚染のおそれのある化学物質の環境(大気、水域、土壌)への排出量または廃棄物としての移動量を事業者自ら把握し、その結果を行政機関に報告・公表することにより、事業者の自主的な管理を促進し、環境保全上の支障を未然に防止することを目的とした仕組み。

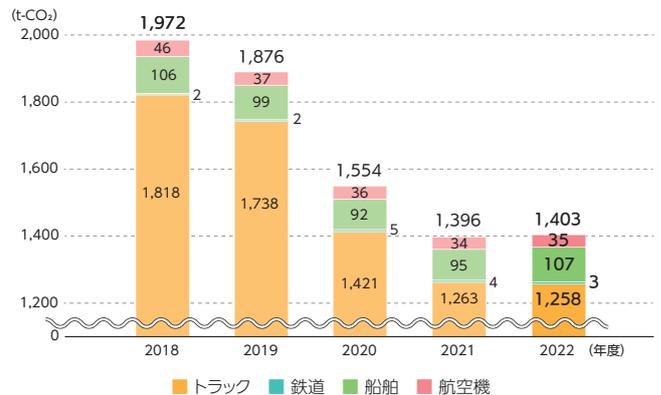
## 環境関連データ

図表15 国内全体の委託貨物輸送量内訳とモーダルシフト率の推移



集計範囲:日本国内での物流部、営業本部、工場、リサイクルセンターの委託貨物輸送(製品、部品の配送、部材調達、廃棄物の排出、使用済み製品の回収)量

図表16 委託貨物輸送によるCO<sub>2</sub>排出量の内訳



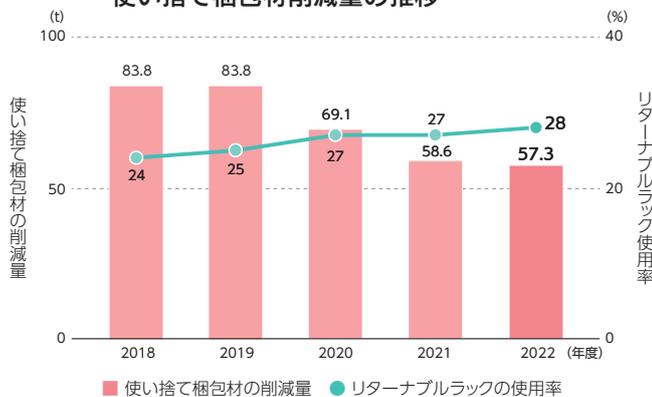
集計範囲:日本国内での物流部、営業本部、工場、リサイクルセンターの委託貨物輸送(商品、部品の配送、部材調達、廃棄物の排出、使用済み製品の回収)に伴うCO<sub>2</sub>排出量

### POINT

当社は、省エネ法による特定荷主に該当していませんが、製品輸送時の環境負荷を低減させるべく、委託輸送量の正確な把握とCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。

2022年度も消耗品輸送についてトラックから船舶へのモーダルシフトに取り組みました。2021年度に比べモーダルシフト率が36.2%から38.3%、CO<sub>2</sub>排出量は7t-CO<sub>2</sub>の0.5%増加しました。

図表17 リターナブルラック使用率と使い捨て梱包材削減量の推移



集計範囲:筑波出荷センターから国内向け(営業拠点、販売店、お客様)に出荷するデジタル印刷機および高速カラープリンターを対象としています。

### POINT

製品の出荷にリターナブルラックを使用することで、段ボールや発泡スチロールなどの使い捨て梱包材の使用量を削減しています。

2022年度は、リターナブルラックの使用率が28%で、梱包材を57.3t削減しました。

図表18 環境教育実施内容と参加人数(2022年度)

研修(教育)の種類	回数(回)	延べ人数(人)	延べ時間(人・時間)
一般環境教育(Web学習)	1	1,681	420
一般環境教育	14	151	87
環境方針・EMPの確認教育	1	309	155
内部監査員教育	5	42	291
特定環境教育	12	110	43
事故・緊急時訓練	10	105	63
防災訓練	3	519	490
EMSレベルアップ教育・研修	3	18	18
外部セミナー(法規制動向…等)受講	4	28	84
安全・衛生向上教育	1	7	7
総計	54	2,970	1,658

集計範囲:日本国内の事業所で実施する教育・研修  
※研修・教育のうち、環境に関わるものを抽出し集計しています。

### POINT

社員一人ひとりの環境意識の向上と環境保全活動の実践を目的とした一般向けから、内部品質環境監査員教育やEMS外部資格教育・研修などISO等の専門教育まで、幅広いプログラムを整備して環境教育・研修を行っています。

## 環境会計

### ●集計の方法・考え方

- ・環境保全コストや経済効果の把握の仕方は、環境省の「環境会計ガイドライン(2005年版)」を参考にしています。ただし、コスト分類については、当社独自の分類に合わせて変えています。また、環境保全コストの費用額に減価償却費は含めていません。効果については、実質的效果(確実な根拠に基づいて算定される)といわれる収益と費用節減を計上しています。実質的效果以外の推定的効果は計上していません。
- ・環境配慮設計に関わる環境保全コストを表中に計上すべきですが、環境保全を目的とする部分と環境保全目的ではない部分を明確に区別できないため、研究開発費の総額として有価証券報告書に掲載しています。

●対象期間: 2022年度(2022年4月1日~2023年3月31日)

●集計範囲: 理想科学工業株式会社国内事業所(筑波事業所、霞ヶ浦事業所、宇部事業所、理想開発センター、本社部門および営業拠点)  
 なお、営業拠点については、「省資源・リサイクル」「EMS構築・運用管理」を集計対象としています。

図表19 2022年度の集計結果

(単位:千円)

活動の区分	分類	環境保全コスト			環境保全効果	
		環境保全活動	投資額	費用額	経済効果	内容
地球温暖化防止対策	・燃料消費削減 ・電力消費削減	・高効率ボイラーへの更新、 モーダルシフトの実施 ・省エネ機器の導入など	0	570	154	・製造、輸送時のCO <sub>2</sub> 削減 ・電力使用量の削減
省資源・リサイクルの推進	・使用済み製品の有効活用 ・廃棄物の有効活用 ・廃棄物の処理	・使用済み製品の回収・ リサイクル ・廃棄物の分別、再資源化		260,595	394,723	・リユースによるコストダウン ・再資源化率向上
環境コミュニケーション	・製品の環境情報提供 ・環境への取り組みに関する 情報提供	・環境ラベルの取得 ・環境報告書の発行 ・展示会への出展		14,139		・エコマーク商品認定など ・環境報告書発行、WEB改訂など
緑地	・緑地の美化、維持	・緑地の美化、維持		3,616		・緑地の美化、維持
法規制遵守 (公害防止対策・環境汚染防止)	・遵法活動(水質、大気など) ・法規制の動向把握	・排水の管理 ・排ガスの管理 ・設備の点検、保守 ・法規制の監視		17,829		・環境保全活動 ・国内外法規制動向の調査・把握
グリーン調達	・原材料、部品の環境情報の 収集および登録	・REACH他環境情報システム の運用		6,633		・環境情報の更新、維持管理
EMS構築・運用管理活動	・ISO	・ISO14001認証取得、維持 管理		4,431		・ISO14001認証更新、 維持管理
総計			0	307,812	394,878	

図表20 コスト(投資額+費用額)の推移

(単位:千円)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
地球温暖化防止対策	63,672	18,163	1,073	1,370	570
省資源・リサイクルの推進	391,304	383,016	333,979	291,048	260,595
環境コミュニケーション	21,320	15,153	8,749	11,971	14,139
緑地	3,000	3,000	2,686	2,350	3,616
法規制遵守	28,657	15,604	18,282	20,887	17,829
グリーン調達	7,489	7,484	6,970	7,524	6,633
EMS構築・運用管理活動	4,765	5,071	9,321	4,230	4,431

図表21 経済効果(収益+費用節減)の推移

(単位:千円)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
地球温暖化防止対策	1,142	676	148	150	154
省資源・リサイクルの推進	414,798	358,227	219,061	279,058	394,723

※他の環境コミュニケーションほか5項目は経済効果はなし

図表22 環境会計の推移(製品の環境配慮設計などの開発費用を除いた比較)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
コスト(投資額+費用額) (単位:千円)	520,208	447,491	381,059	339,379	308,179
経済効果(収益+費用節減) (単位:千円)	415,941	358,903	219,209	279,208	394,878
効果の割合 (単位:%)	80%	80%	58%	82%	128%

### POINT

2022年度は2021年度と比較し、地球温暖化防止対策のコスト(投資額+費用額)は、800千円減少しました。継続して省エネ効果の高い照明や空調への入れ替えなどを行いました。経済効果は4千円の増加となりました。

使用済み製品の回収量やリユース機等の生産量は増加しました。省資源・リサイクルの推進のコストは30,453千円減少しました。経済効果は115,666千円増加しました。

コスト(投資額+費用額)と経済効果(収益+費用節減)の割合は、128%でした。

## 主要事業所の環境データ（サイトデータ）

図表23

## 筑波事業所

集計範囲:筑波事業所内を対象としています。

事業所概要	所在地	茨城県稲敷郡阿見町福田 127-7(福田工業団地)	敷地面積	97,000m <sup>2</sup>
			建物延床面積	29,326m <sup>2</sup>
	操業開始	1981年(昭和56年)10月	従業員数	285人(2023年3月末現在)

主な生産品目	事務用デジタル印刷機「リソグラフ」ならびに周辺機器 高速カラープリンター「オルフィス」ならびにインク、周辺機器
--------	--

特定施設の届出状況	大気汚染防止法のばい煙発生施設(ボイラー) 霞ヶ浦の富栄養化の防止に関する条例の特定施設:浄化槽 振動規制法の特定施設:油圧プレス、機械プレス、空気圧縮機、せん断機、丸のご盤
-----------	---

主な環境保全活動	・ISO14001認証継続(2017年10月更新)	・廃棄物排出量の削減と再資源化の推進
	・RoHS指令対応など環境配慮設計活動	・省エネによるCO <sub>2</sub> 排出量削減
	・グリーン調達の実施	・グリーン購入の推進

## 環境関連データ

	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前年度比(%)
電力使用量	MWh	2,066	1,855	1,805	1,816	1,791	99
水使用量	m <sup>3</sup>	10,669	9,737	7,963	7,543	8,893	118 <small>注1</small>
上水	m <sup>3</sup>	10,669	9,737	7,963	7,543	8,893	118 <small>注1</small>
地下水	m <sup>3</sup>	0	0	0	0	0	—
排水量	m <sup>3</sup>	10,669	9,737	7,963	7,543	8,893	118 <small>注1</small>
BOD年間排出量	kg	0.9	9.7	8.0	8.1	8.9	109
窒素年間排出量	kg	92	78	72	72	74	103
燐年間排出量	kg	8.2	13.2	4.1	3.8	7.5	198 <small>注2</small>
廃棄物総排出量	t	439	460	397	345	362	105
埋立最終処分量	t	3.3	1.5	1.9	1.6	1.6	98
廃棄物再資源化率	%	99.2	99.7	99.5	99.5	99.6	100

※筑波事業所の排水は公共水域へ排出しています。

注1 屋根の遮熱塗装の前処理等によるものです。注2 基準値内で、ばらつきの範囲です。

図表24

## 霞ヶ浦事業所

集計範囲:リサイクルセンターを含めた霞ヶ浦事業所内を対象としています。

事業所概要	所在地	茨城県稲敷郡阿見町阿見 282-2	敷地面積	28,265m <sup>2</sup>
			建物延床面積	16,821m <sup>2</sup>
	操業開始	1965年(昭和40年)8月	従業員数	53人(2023年3月末現在)

主な生産品目	事務用デジタル印刷機「リソグラフ」の製造
--------	----------------------

特定施設の届出状況	騒音・振動規制法の特定施設:空気圧縮機、シャーリングなどの工作機械
-----------	-----------------------------------

主な環境保全活動	・ISO14001認証継続(2017年12月更新)	・廃棄物排出量の削減と再資源化の推進
	・使用済み印刷機本体のリサイクル活動	・省エネによるCO <sub>2</sub> 排出量削減

## 環境関連データ

	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前年度比(%)
電力使用量	MWh	511	464	449	443	434	98
水使用量	m <sup>3</sup>	1,155	843	843	900	820	91
上水	m <sup>3</sup>	1,155	843	843	900	820	91
地下水	m <sup>3</sup>	0	0	0	0	0	—
排水量	m <sup>3</sup>	1,155	843	843	900	820	91
BOD年間排出量	kg	8	5	11	5	4	73 <small>注1</small>
窒素年間排出量	kg	49	30	41	40	36	92
燐年間排出量	kg	6.2	4.3	4.8	4.3	3.5	82 <small>注1</small>
廃棄物総排出量	t	256	160	153	139	125	89
埋立最終処分量	t	2.5	0.3	1.1	0.3	0.1	33 <small>注2</small>
廃棄物再資源化率	%	99.0	99.8	99.2	99.8	99.9	100

※霞ヶ浦事業所の排水は公共下水道へ排出しています。

注1 基準値内で、ばらつきの範囲です。注2 使用済み印刷機本体のリサイクル活動が促進したため。

## 主要事業所の環境データ（サイトデータ）

図表25

### 宇部事業所

集計範囲:宇部事業所内を対象にしています。

事業所概要	所在地	山口県宇部市瀬戸原工業団地	敷地面積	75,871m <sup>2</sup>
			建物延床面積	15,598m <sup>2</sup>
	操業開始	1986年(昭和61年)6月	従業員数	69人(2023年3月末現在)
主な生産品目	デジタル印刷機「リソグラフ」用インクならびにマスター			



特定施設の届出状況 該当施設はありません

- |          |                          |                              |
|----------|--------------------------|------------------------------|
| 主な環境保全活動 | ・ISO14001認証継続(2021年9月更新) | ・廃棄物排出量の削減と再資源化の推進           |
|          | ・RoHS指令対応など環境配慮設計活動      | ・省エネによるCO <sub>2</sub> 排出量削減 |
|          | ・グリーン購入の推進               | ・使用済みインクボトルのリサイクル            |

#### 環境関連データ

	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前年度比(%)
電力使用量	MWh	2,182	2,109	1,693	1,797	1,723	96
水使用量	m <sup>3</sup>	5,528	5,309	4,324	4,659	4,433	95
上水	m <sup>3</sup>	2,481	2,469	2,220	2,341	2,288	98
地下水	m <sup>3</sup>	3,047	2,840	2,104	2,318	2,145	93
排水量	m <sup>3</sup>	2,481	2,469	2,220	2,341	2,288	98
BOD年間排出量	kg	15	5	9	33	13	40 <small>注1</small>
廃棄物総排出量	t	211	188	148	172	182	106
埋立最終処分量	t	0.2	0.3	0.1	0.1	0.1	100
廃棄物再資源化率	%	99.5	98.7	99.4	99.4	99.5	100

※宇部事業所の排水は公共水域に排出しています。

注1 基準値内で、ばらつき範囲です。

図表26

### 理想開発センター

集計範囲:理想開発センター内を対象にしています。

事業所概要	所在地	茨城県つくば市 学園南2丁目8番1	敷地面積	17,521m <sup>2</sup>
			建物延床面積	15,197m <sup>2</sup>
	操業開始	2013年(平成25年)6月		



特定施設の届出状況 水質汚濁防止法・下水道法に係る特定施設:ドラフトチャンバー1台、流し台5台、洗濯機1台  
騒音規制法に係る特定施設:送風機4台、液圧プレス3台、せん断機2台  
振動規制法に係る特定施設:液圧プレス3台、せん断機2台  
ばい煙発生施設として:非常用発電機1台

- |          |                              |                    |
|----------|------------------------------|--------------------|
| 主な環境保全活動 | ・ISO14001認証更新(2020年11月9日)    | ・環境配慮設計活動          |
|          | ・省エネによるCO <sub>2</sub> 排出量削減 | ・廃棄物排出量の削減と再資源化の推進 |

#### 環境関連データ

	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前年度比(%)
電力使用量	MWh	2,331	2,257	2,037	2,130	2,061	97
水使用量	m <sup>3</sup>	9,788	8,356	6,258	5,967	6,355	107
上水	m <sup>3</sup>	9,788	8,356	6,258	5,967	6,355	107
地下水	m <sup>3</sup>	0	0	0	0	0	—
排水量	m <sup>3</sup>	9,788	8,356	6,258	5,967	6,355	107
BOD年間排出量	kg	275	275	356	269	107	40 <small>注1</small>
廃棄物総排出量	t	204	256	116	120	99	83
埋立最終処分量	t	1.7	1.4	0.8	0.8	0.8	108
廃棄物再資源化率	%	99.2	99.2	99.0	98.8	98.8	100

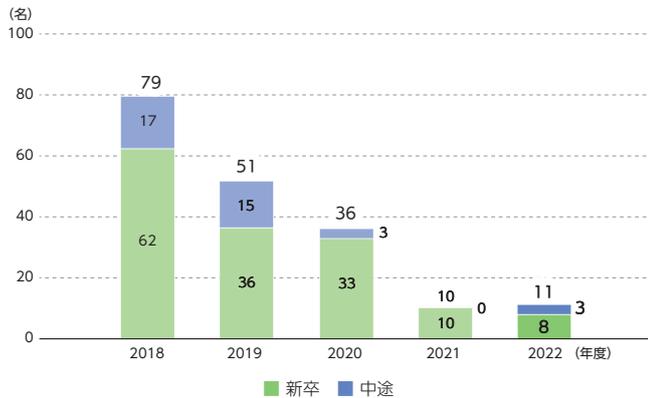
※理想開発センターの排水は公共下水道に排出しています。

※2013年6月に開所しました。環境に配慮してまいります。

注1 基準値内で、ばらつき範囲です。

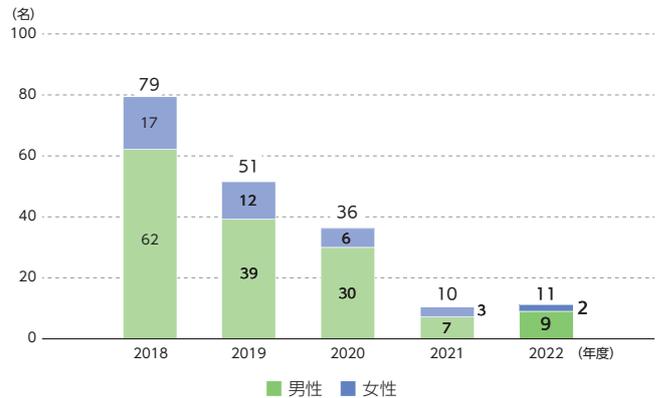
## 社会関連データ

図表27 採用実績(国内) (新卒/中途)



集計範囲:単体(国内)

図表28 採用実績(国内) (男性/女性)



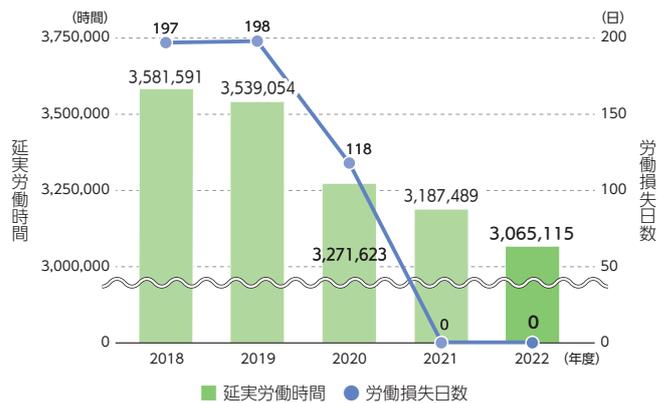
集計範囲:単体(国内)

図表29 労働災害発件数および度数率・強度率



集計範囲:単体(国内)

図表30 延実労働時間と労働損失日数



集計範囲:単体(国内)

### POINT

#### 労働安全衛生

各生産事業所では、「安全衛生委員会」を設け、職場環境整備、不安全箇所の発見と是正、「ヒヤリハットの活動」などを行い、事故・災害防止に努めています。また、社内イントラネットに「安全衛生」ページを設け、社員の安全意識の啓発・教育を行っています。2022年度の国内の労働災害発件数は、10件で、2021年度から2件減少しました。労働災害による労働損失日数は0日で2021年度と同じでした。

#### 社員の健康増進

当社は、健康診断の実施やメンタルヘルスへの配慮などを通じて社員の健康面に配慮しています。一般健康診断、生活習慣病検診、人間ドックを実施して社員の健康状態を確認するとともに、必要に応じて生活習慣や健康増進に関する指導を行っています。また、身体の健康だけではなく心の健康を保つため、心の健康調査の実施や相談窓口を設置しています。

## 理想科学工業株式会社

本社／〒108-8385 東京都港区芝五丁目34番7号 田町センタービル

【お問い合わせ先】 環境活動推進部

Tel. 03-5441-6778 Fax. 03-5441-6629

E-mail: [info@riso.co.jp](mailto:info@riso.co.jp) URL: <http://www.riso.co.jp/>